

平成 30 年 5 月 13 日 杉並三田会総会・懇親会にてご講演

オリンピックと日本外交—三つの“東京大会”を中心に
慶応義塾大学名誉教授 池井優 先生

I) 国家にとってオリンピックは以下 5 点の意味がある

(1) 国際親善の手段

ex. クーベルタンによる「オリンピックの目的は勝つことではない、参加することである」は、オリンピックの建前であり理想
分断国家においては、1960 年ローマ五輪において東西両ドイツが「ベートーベンの歓喜の歌のアレンジ」をバックにしてオリンピック旗で合同入場、2000 年シドニー五輪では南北朝鮮がアラン行進曲をバックにして統一旗で合同入場、1984 年ロス五輪以降では台湾がチャイニーズタイペイとして参加(なお、ワールドゲームスは台湾高雄で開催したが中華人民共和国は参加したものの開会式には遅れて参加し閉会式には出ずに帰国した—**中華民国(台湾)国旗の掲揚と国歌の吹奏の場に居ないため**)。

(2) 国威発揚—ナショナリズムの盛り上げ

ex. ソ連と東ドイツが最初にこの利用に気付き、国家丸抱えで選手を作ってメダルを量産

(3) 国家の宣伝

ex. 1936 年ベルリン大会の招致以降(1932 年～)ヒトラーが利用(ゲッペルス宣伝大臣によるメディア対策やリーフェンシュタール女流監督による素晴らしい記録映画⇒米英等世界各国にて上映して好評)

(4) 政治・外交的利用

ex. 1980 年モスクワ五輪のアフガニスタン問題による日本のボイコットは「一番安上がりな対米協力」であった(絶好調の宗兄弟・瀬古・山下等は泣いたが)⇒66 か国が不参加

(5) 経済発展への活用

ex. 東京オリンピックを契機として経済発展

II) 「幻の東京オリンピック」(1940 年)は以下の経緯であった。

(1) 紀元 2600 年記念イベントとしての万博とオリンピックとしての位置づけだった。

(2) 1931 年 10 月、東京市議会が五輪招致を承認

(3) ライバルローマへの辞退働きかけ—IOC 委員となった副島道正(ケンブリッジ卒)のムッソリーニへの病を押しての命懸けの直接要請(1944 年はロー

マ招致に協力する約束)

(4) 日本の訴え

① 紀元2600年

② アジア初(五輪マークは五大陸を示しているはず)

(5) 東京開催の問題点と対策

① 距離

対策:日本郵船や東洋郵船等への割引要請

② 来日費用

対策:日本による費用補助

③ 列国の日本理解度

対策:日本の現状紹介のパンフレット(ジャパンプクトリアル)の英独仏版を作成して各国に配布

(6) ベルリン大会直前のIOC総会、東京34票、ヘルシンキ27票で決定(1936年)

(7) 日中戦争の勃発(1937. 7. 7)と拡大—国際世論(特に中国の宣伝による米英等の反対)の硬化、国内に反対意見(河野一郎等)、陸軍騎兵隊の馬術代表選手辞退表明

(8) 日中戦争の長期化—資材の不足と財政難

(9) 1938年7月15日、東京市、大会返上を表明、ヘルシンキに変更、第2次世界大戦のため開催されず

Ⅲ)東京大会(1964)は以下の経緯を経て成功した

(1) 戦後復興の象徴としてのオリンピック招致(独立間もない1952. 5. 9に都議会で議決)

(2) IOC総会に立候補(1955)、東京4票で惨敗、17回大会は同じ敗戦国のローマに決定 ⇒ 次はやる!!との決意

(3) 戦略の見直し—IOC総会、アジア大会の東京開催—施設と組織力をアピール(国家的事業として取り組み、日本として一番弱かった中南米諸国等にアピール)

(4) アジア初のオリンピック強調

- (5) 国家的事業の位置づけ—経済成長の起爆剤
- (6) フレッド和田(妻帯同で中南米10カ国訪問)などの無報酬でのロビー活動、IOC総会での平沢和重(元外交官、NHK解説者)の15分の名プレゼン(小学生の教科書にはオリンピック精神が書かれている。飛行機の時代であり日本はファーストではない)
- (7) IOC総会(1959)54票中34票を得て、デトロイト、ウィーン、ブリュッセルを破り、決定
- (8) 近代的ホテル、東名高速、首都高速、新幹線、下水道などインフラ整備
- (9) 国民世論の盛り上げ—戦中に迷惑をかけた東南アジアを巡った後に、沖縄・北海道等全国を巡っての聖火リレー
- (10) 93の国、地域から5133人の選手が参加
- (11) 「東洋の魔女」女子バレーボール、マラソンのアベベなどの活躍、体操のチャスラフスカ
- (12) 「フジヤマ・ゲイシャ」の日本から「シンカンセンと組織」の日本へ大きく脱皮して高度成長に驀進していった。

IV) 2020東京大会、招致はなぜ成功したか

(1) 周到な準備

- ① 長期的戦略—ローザンヌのIOC本部に一人常駐させ各国IOC委員へのきめ細かいアプローチ
- ② プレゼン的人選—高円宮妃(元通訳であり英仏語が堪能)、佐藤真海(パラリンピアンで東北の被災地出身)、滝川クリステル、太田雄貴・
- ③ プレゼンの内容—画像と「スポーツで救われた人生と震災のダメージ」(佐藤)、「お・も・て・な・し」(クリステル)
- ④ 英語とフランス語(かつての公用語)の使用

(2) 危機意識をもって臨んだこと—安部首相のスピーチと質疑応答による福島汚染水への不安の払しょく

(3) 国民世論の後押し—閉塞感からの脱却への希望

(4) 各IOC委員へのきめ細かいロビー活動

1988年ソウル五輪の名古屋への招致活動時には、北朝鮮によるテロ・東側諸国が韓国未承認などの理由で120%勝てると思っており地味な活動を行っ

てしまい、また韓国による活発な活動の結果、ソウルとなった。
韓国は「分断国家だからこそ韓国に平和の祭典であるオリンピックを」と全
ての IOC 委員に強く根回し。52:27 で名古屋はソウルに負けた。

(5) 対立候補都市の弱点

① マドリッド—スペインの経済不安、メディアの勇み足(スペインに協力する
IOC 委員名を出してしまった)、サマランチ(スペイン出身)神話の崩壊(子
供が親の名前ばかり出して不評⇒オコサマランチ)

② イスタンプール—デモと隣国シリア情勢の影響

(6) 韓国などの東京ネガティブキャンペーンへの反発

(7) 2020年東京オリンピックの課題

① テロ対策 ⇒ 観衆に入り込んでしまうローンウルフ(一匹狼)テロが怖い

② 暑さ対策 ⇒ 8月実施。マラソンは8月9日(去年は37.1℃)

③ 交通・宿泊 ⇒ 民泊・BB 等での対応など

④ 薬物対策 ⇒ ドーピング対策(いたちごっこの状態)

◎ スポーツに係わる小噺

家族「先生、うちのオバアチャン、80 過ぎて水泳始めたんですよ。」水泳の先
生「そうですか。三途の川を渡れるようにしてあげますよ」家族「ただ、ター
ンだけは教えなくてくださいね」

(文責) 実行委員長 前野陽太郎(S54 経)